

インターネットでの情報提供

提供予定日 9月2日(水)

平成21年9月1日(火) 県政記者クラブ配布資料

担当課	担当者	電話番号
総合企画部 観光交流推進局 観光・ブランド振興課	課長補佐 早崎 辰仁	直通 058-272-8396 内線 3074、3075

平成20年岐阜県観光レクリエーション動態調査の結果について

平成20年岐阜県観光レクリエーション動態調査の結果(確定値)がまとまりましたので、お知らせします。

【調査結果のポイント】

区分	確定値(対前年比)	速報値(確定値との差)
観光客数 (推計実人数)	全体 54,292千人(対前年比 + 2.7%)	54,323千人(▲31千人)
	日帰り 50,131千人(対前年比 + 3.3%)	50,167千人(▲36千人)
	宿泊 4,161千人(対前年比 ▲3.5%)	4,155千人(+6千人)
観光消費額 (推計額)	全体 286,290百万円(対前年比 ▲1.4%)	286,334百万円(▲44百万円)
	日帰り 190,192百万円(対前年比 + 5.9%)	190,369百万円(▲177百万円)
	宿泊 96,098百万円(対前年比 ▲13.3%)	95,966百万円(+132百万円)

(注)速報値(平成21年3月公表)との差異は、各市町村との最終精査により東濃と飛騨圏域内のデータを修正したことによるもの。

- 飛騨・美濃じまん観光キャンペーンなど各種誘客事業を実施したほか、東海北陸自動車道の全通効果により、宿泊客は減少したものの、日帰り客が大幅に増加し、県内の観光客数は、54,292千人と過去最高(現在の統計手法となった平成9年以降)となった。
- 観光消費額は、宿泊客の減少により、全体では2年ぶりの減少となった。
- 観光地点別の集客数は、土岐プレミアムアウトレットが、前年に引き続き県内トップで、1位から6位までは前年と同じ結果となったが、前年9位であった白川郷合掌造り集落が、東海北陸自動車道全通効果により前年比3割以上の増加となり、7位に上昇した。

【調査結果の概要】

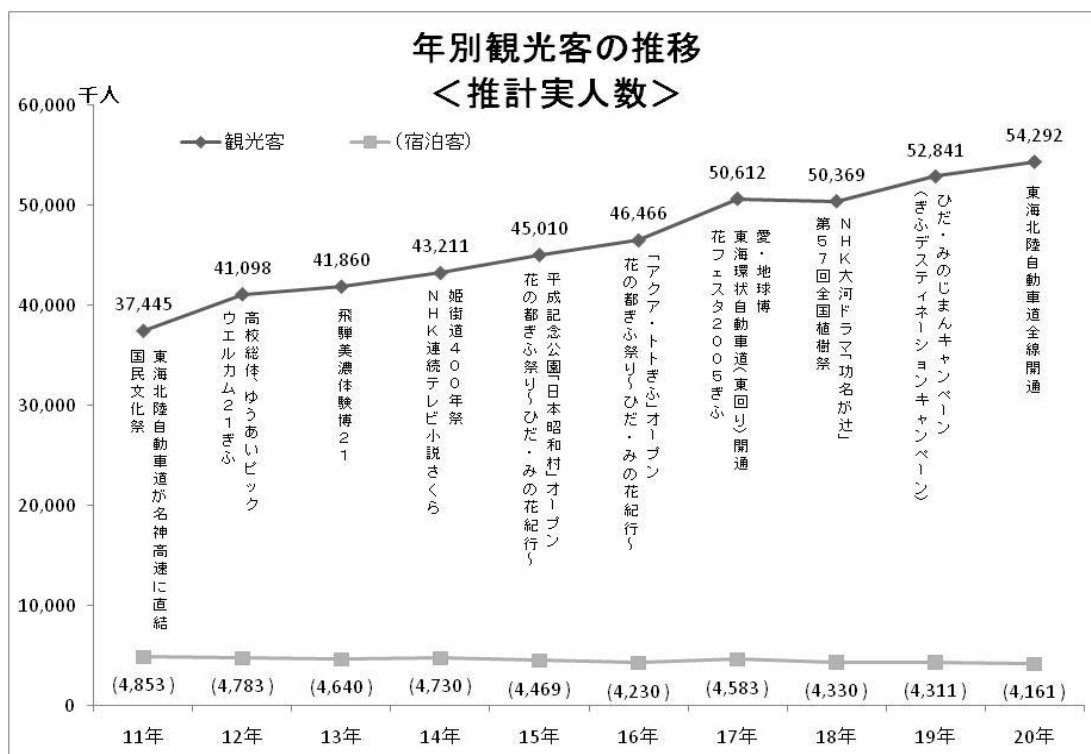
1 観光客数

平成20年の観光入り込み客数は、前年と比較して、1,451千人増加（前年比+2.7%）の54,292千人と、現在の統計手法となった平成9年以降で最高の入り込みとなった。

また、集客数の県内トップは、前年に引き続き土岐プレミアム・アウトレットの4,310千人となった。

＜観光地点別入り込み客数順位(ベスト10)＞

順位	観光地点名	観光客数 (千人)	前年 順位
1	土岐プレミアム・アウトレット	4,310	(1)←
2	河川環境楽園(アクアト含む)	4,179	(2)←
3	高山地域	2,723	(3)←
4	千代保稲荷神社	2,080	(4)←
5	世界イベント村ぎふ	1,764	(5)←
6	千本松原・国営木曾三川公園	1,713	(6)←
7	白川郷合掌造り集落	1,648	(9)↗
8	伊奈波神社	1,531	(7)↘
9	下呂温泉	1,295	(8)↘
10	谷汲山華厳寺	840	(11)↗



(1) 日帰り・宿泊別観光客数

平成20年の観光客数54,292千人を日帰り・宿泊別にみると、日帰り客は50,131千人、宿泊客は4,161千人と、日帰り客が全体の92.3%を占めており、昨年よりも日帰り客の割合が0.5ポイント増加した。

(2) 居住地別観光客数

居住地別に見ると、県全体では県内客は30,395千人(構成比56.0%)、県外客は23,897千人(構成比44.0%)と、県内客が多くを占めるが、飛騨圏域では県外客の割合(67.5%)の方が高い。

なお、県外客のうち69.8%は東海地方からの観光客であり、以下近畿地方、関東地方と続いている。

(3) 男女別・年齢別観光客数

男女別で見ると、男性が25,265千人(構成比46.5%)に対し、女性は29,027千人(構成比53.5%)と女性が上回った。

年齢別では、60歳以上が34.4%と最も多く、以下30歳代、50歳代と続いている。

(4) 利用交通機関別観光客数

利用交通機関別に見ると、前年に引き続き自家用車が最も多く全体の77.5%を占めたが、前年より減少する一方、路線バス(前年比+56.0%)及び、貸切バス(前年比+30.9%)は増加した。

(5) 同行者別観光客数

同行者人数別に見ると、「2～3人」と「4～5人」で全体の80.1%を占める一方で、「団体旅行」の割合は全体の4.7%に留まり、少人数による観光形態が主流となっている。

(6) 観光地分類別観光客数

観光地分類別に見ると、「買物」と「文化・歴史」で全体の40%以上を占め、以下「スポーツ・レクリエーション」、「イベント」、「自然」、「温泉」、「産業観光」、「行・祭事」と続く。

(7) 圏域別観光客数

圏域別に見ると、中濃、東濃、飛騨圏域で増加した一方、岐阜、西濃では減少した。

<観光客実人数(推計)>

(単位:千人、%)

	日帰り客数	宿泊客数	観光客数(合計)	対前年比
岐阜圏域	12,051	714	12,765	▲1.3
西濃圏域	11,413	235	11,649	▲1.6
中濃圏域	9,651	548	10,199	+1.3
東濃圏域	11,533	432	11,965	+9.2
飛騨圏域	5,483	2,231	7,713	+9.5
合計	50,131	4,161	54,292	+2.7

※千人未満を四捨五入しているため、内訳の計は合計と一致しないことがある。

(8) 外国人延べ宿泊客数の動向

外国人の延べ宿泊客数について、268千人で、前年と比べて47千人の増加(対前年比+21.3%)となり、過去最高を記録した。

2 観光消費額

平成20年の観光消費額の総額は286,290百万円(対前年比▲1.4%)で、そのうち日帰り客分は190,192百万円(対前年比+5.9%)、宿泊客分は96,098百万円(対前年比▲13.3%)であった。

また、1人当たりの平均消費額は、日帰り客は3,794円(対前年比+2.6%)、宿泊客は23,096円(対前年比▲10.2%)であった。

参考：経済波及効果

平成20年の生産誘発額は408,997百万円(対前年比▲0.8%)で、就業誘発効果は41,133人(対前年比▲5.6%)となった。

経済波及効果(推計)

	平成20年	平成19年	対前年比
生産誘発額	408,997百万円	412,353百万円	▲0.8%
就業誘発効果	41,133人	43,557人	▲5.6%